



虫に刺された時の対処法



虫に刺されてしまったら、痒み止めの薬を塗ることや、患部を冷水で冷やすと効果的です。いくら痒くても、かきむしらないことが大切です。かきむしることで傷ができ、そこから菌が入り化膿することがあります。また、かきむしると皮膚に色素が沈着して、痕が残ったり皮膚が黒ずんだりします。この痕は年齢が進むほど長く残りやすいので注意しましょう。



○蚊、ノミ、ダニなどにさされた時

虫刺されのなかで最も多いのは、蚊やノミ、ダニによるものです。ダニやノミの場合は駆除を考えないと、治ってもまた繰り返し刺されることになってしまいます。刺された場合はまず、市販の痒み止めなどを塗って様子を見ましょう。痒みや痛み、腫れがひどい場合は、タオルなどで患部を冷やし、出来るだけかかないようにしましょう。

○毒蛾、毛虫に触れた時

蛾の中には毒毛を持ち、触れると皮膚炎を起こすものがあります。毒蛾や毛虫などの体表面にある毒針毛が皮膚についたら、すぐに粘着テープなどで除去するか水で洗い流してから、痒み止めを塗るようにしましょう。

○ハチにさされた時

ハチに刺された場合は、まず針が残っていないか確認し、針が残っていた時は毛抜きなどで抜き取ってください。毒液は水に溶けやすいため、針が残っていないことを確認したら流水でよく洗い流してください。ハチに刺されたときに注意が必要なのはアナフィラキシーショック（急性アレルギー反応）と呼ばれるもので、気分が悪くなったり息苦しいなどの症状がでた場合はすぐに医療機関を受診してください。

○何に刺されたか解らないときは??

刺された場所や腫れ具合、痛みや痒み等である程度判断することができます。

蚊 一般的に激しい痒みがあり、赤く腫れる。 数時間で治ることが多い。	毒蛾・毛虫 接触後、数分ないし数時間でピリピリする感じが起こり、痒みとともに蕁麻疹の様な発疹ができる。
ハチ類 刺し口から出血し、激しい痛みを伴う。 真っ赤に腫れ上がる。 ※アナフィラキシーショックに注意!!	アブ 吸血時に激しい痛みがあり、やがて発赤がみられ中央にしこりができる。
ノミ 足、特に膝下を指されることが多く、発赤や水疱などの症状が見られる。	ダニ 太ももの内側やわき腹など柔らかい部分に赤い斑点のような発疹ができる。

○虫刺され予防法

市販の虫除けスプレーや虫除けティッシュは蚊やブヨ・ダニなどに効果がありますが、ハチや毛虫・ムカデなどには効果がありません。外出する際は虫除けスプレーなどの他に、出来るだけ肌の露出を控えて長袖・帽子などを着用するように心がけましょう。



※入浴や飲酒、刺激の強い食べ物も痒みを増す原因になることがあります。お風呂はぬるめのお湯に入るようにし、アルコールや刺激物は控えたほうがよいでしょう。虫刺されの症状には個人差や年齢差があるため、痒みや腫れの症状がひどくなる場合は、お近くの医師や薬剤師に相談しましょう。

☆ピュアタウン薬局からのお知らせ☆

簡単に短時間でご自身の血圧や心電図などが測定できる**ECBO測定器**を導入しました。1回100円でいつでも、どなたでも気軽に測定でき、測定結果は印刷し、お持ち帰りいただけます。どうぞ日頃の健康管理や疾患の早期発見、治療等にご利用くださいませ。

【測定項目】血圧・脈圧・脈拍数・体脂肪率・体水分量・SpO2（血中の酸素飽和度）・心電図など

